



三重大学
大学院

医学系研究科 デジタルヘルス専攻

令和9年4月
設置構想中

※設置構想は検討中であり、今後、内容は変更される可能性があります

医学系研究科 デジタルヘルス専攻とは？

専攻

〔 課程 〕 修士課程 〔 学位 〕 修士(医工学)

設置 背景

全国の医療現場では、医療の高度化への対応や地域間の医療格差の解消のために、医療データ活用へのニーズが非常に高まっています。

国の方針も、電子カルテ情報共有サービスを始めとする医療DXが推進(『経済財政運営と改革の基本方針2024』)されていますが、様々な課題への対処が必要となる医療現場において、デジタル技術のみで医療DXをすすめることはできません。

医療現場で真に医療DXを推進していくために、デジタル技術だけでなく、医療現場の業務フローやニーズに精通し、現場で課題解決ができる人材が強く求められています。



三重大学医療DX 取組実績

三重大学は、医療DX分野において、およそ20年間にわたる実績を誇ります。

県内全域を結ぶ
高速医療画像ネットワークを独自開発

県民全体へ質の高い医療を提供するため、みえの
未来医療会議等の医療連携プラットフォームを形成

地元企業や県内全域の医療機関と協力した
救急遠隔医療連携システムを開発・運営

CT・MRI画像の転送にも対応し、クラウドネイティブな
世代紹介・逆紹介システムを地元企業と開発

本専攻で養成する3つの能力

01

医療現場のニーズを的確に
把握・理解し、デジタル技術を
効果的に活用した
ソリューションを提案できる能力

02

医療データの取り扱いや
プライバシーに関する
法規制の知識と高い倫理観

03

医療機関や地域社会と協力し、
多職種連携を通じて、
医療現場でデジタル技術の
導入と活用を推進する能力

本学が誇る医療DXの実績を基盤として、医療現場での徹底的な実践的学修を通じて

“ 課題解決型のデジタル医療人材 ”
を養成します

Curriculum

カリキュラムの特徴

01



病院での実習により
現場の課題解決を
実践的に学ぶ

- 医療従事者によるPBL型学習＊
- 医療現場でのOPT型学習＊

＊ PBL：Problem-Based Learning OPT：On the Project Training

02



学生のバックグラウンドに
応じたモデルカリキュラム
による専門知識の深化

- 工学系カリキュラム…医学的知見を修得
- 医療技術系カリキュラム…工学的アプローチの学習

カリキュラムイメージ

◆
基礎的
講義

学際分野の体系的・横断的学び
地域医療機関や企業を講師とする現場理解の深化

必修 医療分野におけるDXに必要な基礎知識、倫理など

選択

工学系向け

臨床医学概論、デジタルヘルスと社会医学、
病院情報システムなど

医療技術系向け

数理統計・多変量解析、AIの基礎理論、
ウェアラブルデバイス、情報セキュリティなど



◆
実践的
学び

PBLやOPT型学習を通じた
医療現場の課題解決プロジェクトへの参画

必修

PBL

統計解析の基礎、電子カルテからのデータ抽出など
医療従事者から提示された医療DX推進における課題に対し
解決策を提案するグループワーク

OPT

医療現場で実際のDXプロジェクトに参画し、
医療分野におけるDXの考え方や実現方法を学ぶ実習



◆
研究活動

プロジェクトの成果を評価し、
実際の医療現場や企業の課題にどのように寄与するか研究



Career path

求める人材と想定される進路

入学時

工学系学部出身者
(情報工学、電子工学、システム工学など)

情報系企業社員
(ヘルステック企業の企画職など)

医療関係企業社員
(医療機器メーカーの研究・開発職など)

医療技術者
(放射線技師、臨床工学技士など)

社会人

社会人

社会人

修了者の進路(イメージ)

医療製品やサービスの設計・開発担当者として
情報系企業、医療情報系企業へ就職



自身の勤務先において、
医療現場システムのデザイナー、
医療機関向けコンサルタントとして勤務



自身の勤務先において、医療現場の最適化を担う
デジタルヘルスコーディネーターの役割を担う



地域医療DX推進と教育を担う支援担当者の役割を担う

Admission fee & tuition

入学料・授業料

入学料

282,000円

授業料(年額)

535,800円

お問い合わせ

三重大学医学・病院管理部学務課

✉ g-daigakuin@med.mie-u.ac.jp



国立大学法人

三重大学